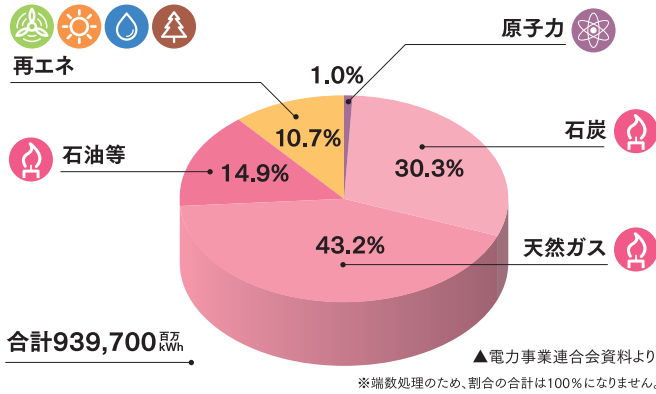


電力の現状

図1 国内電源別発電電力量構成比(平成25年度)



国内の発電量は、939,700百万kWhであり、このうち再生可能エネルギーによる発電量は10.7%となっています。図1

このうち、県内の発電量は、488.2百万kWhで、全国の0.05%となっており図3、内訳は、水力発電が52.5%、風力発電が14.1%、太陽光発電が33.4%となっています。図2

これを、佐賀県内の消費電力量と比べると、平成25年度の県内消費電力量は6571.4百万kWh(出典:佐賀県)であり、7.4%が再生可能エネルギーによる発電量となっています。図4

図2 県内電源別発電電力量構成比(平成25年度)

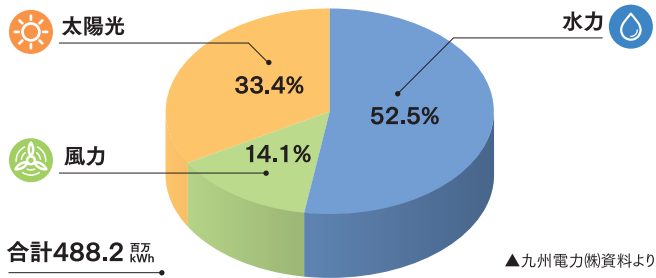


図3 国内と県内の発電電力量比較(平成25年度)

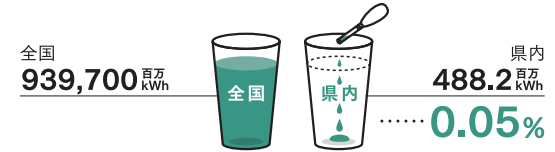


図4 県内の消費電力量と発電電力量の比較(平成25年度)



佐賀県のエネルギーのあゆみ

◎江戸-昭和は石炭を燃料にし大きく繁栄。

佐賀県は古くは江戸時代からエネルギーとともに歩んできた長い歴史があります。当時、県内には多くの炭鉱が発見され、全国の出炭量の30%を産出する、一大貿易拠点、産業都市として発展しました。

昭和40年代に入ると、全ての炭鉱が閉山し、石炭産業は終焉を迎え、エネルギーの主流は石炭から石油・原子力へと移り変わっていきました。

◎昭和後期-平成を経て再生可能エネルギーが普及。

昭和後期-平成を経て水力・風力・太陽光などの再生可能エネルギーといった様々なエネルギーの開発が進められました。

現在は、地球温暖化防止、循環型社会の形成、エネルギーの安定供給等に資するとともに、新規産業の育成、雇用の拡大につながる等、持続可能な経済社会の構築に寄与することから、再生可能エネルギーの導入促進を進めており、佐賀県は常に時代の最先端エネルギーとともに歩んでいます。

江戸 — 明治 — 大正 — 昭和 — 平成

